



道徳の取り組み内容(6月9日)

◎1年生:「ぼくのふるさと」

- 教材** 本教材に出てくる、串原村では、現代社会で薄れつつある人と人のつながりが残っている地域である。とはいえ、高齢化が進む串原村。作者は、大好きな串原村で働き、村の発展のために中学生の自分にできることから始めようとしている。
- 私もずっと三田で暮らしているから、もし離れたところで暮らすことになったら。この場所から離れて暮らしたくないなと考えます。
 - 地域の行事に積極的に参加したら地域の人ともつながれるし、人間関係が広がるからいいなと思いました。また、最近では、三田牛の皮を使ってバッグやグローブを作っているの、三田の物をいろいろな形で工夫したらよいものができると思った。
 - 自分の故郷のために出来ることは、一人一人が健康にいられるように自分と身の周りの人と協力することだと思います。自分にできることとして、人のためになることをしたいです。



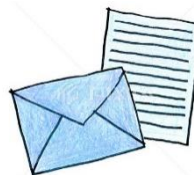
◎2年生:「一冊のノート」

- 教材** 祖母と同居する中学生の「ぼく」の話。「ぼく」は、老いが進む祖母を心配しつつも、その言動にいらだちを感じたり、どうにもならないもどかしさを感じたりし、祖母への接し方について学ぶ。そんなとき、「ぼく」は祖母が書いた一冊のノートを見つける。
- 人の本当の思いを知ることで、印象はだいぶ変わりました。これまで「ぼく」や「隆」は怒っていたけれど、「ぼく」はノートを見てこれまでの行動を後悔したり、申し訳なく思ったのかなと考えました。私も自分のおじいちゃんやおばあちゃんに感謝していきたいです。
 - 私も家族の人にたくさん支えられて生かされていることに気づいた。私も、その恩を少しずつ返せるようにしていきたいと思いました。小さなことでも、「ありがとう」や「ごめんなさい」を伝えることができればいいなと思いました。



◎3年生:「二通の手紙」

- 教材** 模範的な職員であった元さんが、幼い姉弟への同情心からきまりを破り、その結果、多くの園内職員を巻き込み、会社を解雇されてしまう。元さんのもとには、お礼の手紙と懲戒処分の手紙が届く。
- ルールを守る大切さが分かりました。みんなが安全に暮らせるためにルールがあるということを心にきざんで、生活していこうと思いました。
 - 一個人の感情で動いて、良いとき、悪いときもあるけれど、ルールがあるからこそ、みんなが楽しめるということもあるなと思いました。
 - 人が喜んでくれるために何でもするのではなく、それをするとどうなるのか、しっかりと考えて行動することが大切だと思いました。



道徳の取り組み内容(6月2日)

◎1年生:「自分の性格が大嫌い」

- 教材** 人間の持っている「短所と長所」は裏表であり、自分の「短所と長所」の両方を公平に見つめる事で人生は楽しくなると作者は主張する。
- 「マイペース」は悪い面から見ると、自己中心になるけれど、良い面から見ると「自分の納得がいくまでできる」というふうに言い換えることができるんだと思った。長所の裏が短所で、長所と短所は裏表ということに本当だなと思った。
 - 悪いところは実は良いところという考え方は自分を少し楽にすることができる良い方法だなと思った。逆に自分に自信を持ちすぎてもいけないなと思った。友達の考えを交流すると自分の考えが深まった。
 - 今まで自分の短所を嫌だなと思ってきたけれど、今日、長所を考えてみて、自分が短所だと思うところでも、ちゃんと長所もあるということが分かって、嬉しくなりました。これからはなるべくプラスに考えて自分のことをもっと好きになりたいと思いました。



◎2年生:「我、ここに生きる」

- 教材** 札幌での開業を夢見る新婚の医師道下俊一は、霧多布の古い病院への勤務を命じられる。道下医師の誠実な働きぶりに村人たちは感激し、任期の延長を望まれた。任期6年目に学位を取ったが、村人たちの熱い懇願に、道下医師は霧多布に残ることを決意する。
- 自分が続けやすくて、自分にとって良い経験になる仕事を見つけようと思いました。この話のように「誰かの役に立つ」ということも大切にしていきたいです。
 - 人の仕事についてわかることは少ないけれど、どんな人にもその仕事が大変なものにつながって働いている人が多いと思うから、自分もそうなれるようにがんばりたいです。
 - 仕事というのは必ず「人間関係」が関わってくると思います。また、その「人間関係」から「やりがい」を感じ、そこから「仕事への誇り」と変わっていくと思います。だから、まずは「人間関係」から他人を思いやって行動できるようにしたいです。



◎3年生:「言葉おしり」

- 教材** 見知らぬ人とのさりげない触れ合いの中で、交わされるあいさつの言葉によって、人の心やその場の雰囲気が変わってくる。3つのエピソードから、時と場に応じた適切な言動について考える。
- 言葉というのは、言い方によって相手を傷つけてしまったり、嬉しい気持ちになったりすることがあると思いました。思いを込めて自分の気持ちを伝えることで、相手もうれしくなるし、自分自身も良い気分になると思いました。
 - 人と人がコミュニケーションをとるためには、少しでも声に出したり、返事をしたりするだけで、受け取る側の印象が変わると思いました。ちょっとした言葉でも大切にしていきたいと思いました。
 - 今回の授業を受けて、言葉かけの大切さが分かりました。自分の生活を振り返ってみると、たしかに機械的にあいさつをしたり、お店で「ありがとうございます」と言われても、返事やあいさつをするだけで、感じが柔らかくなる分かりました。



